

平成29年度 学生海外PBLプログラム 概要

部局名 教育推進機構 教養教育開発実践センター

区 分	内 容
事業名	グローバル市民になるためのハワイに学ぶ地域社会の構築
指導教員	教育推進機構 教養教育開発実践センター 准教授 バーマン・シャーリー・ジョイ
学生の所属	理工学部 2名、医学部 2名、教育学部1名
渡航先 (渡航期間)	ハワイ(2017年9月5日～9月15日)
実施スケジュール	<p>平成29年 8月 1日～ 事前調査開始</p> <p>〃 9月 5日 ハワイ渡航、ホルアロア散策</p> <p>〃 9月 6日 ハワイ・コミュニティ・カレッジ訪問</p> <p>〃 9月 7日 シュタイナー教育学校訪問・CCC会参加 Ken・Loveさんの農場訪問</p> <p>〃 9月 8日 ジョブ・シャドーイング農業</p> <p>〃 9月 9日 自然公園・火山</p> <p>〃 9月10日 ホストファミリー対面</p> <p>〃 9月11日 ジョブ・シャドーイング公務員</p> <p>〃 9月12日 ジョブ・シャドーイング病院</p> <p>〃 9月13日 オアフ島上陸・ オアフツアー</p> <p>〃 9月14日～ 帰国</p>
プログラムの概要	<p>1. 目的： 弘前とハワイの両地域を様々な分野から比較・調査し、それぞれの『地域性』の違いを探る。学生は自分の専門や興味に基づいた身近な問題をあらかじめ自ら設定し、現地での体験とともに調査を行い、結果をまとめる。</p> <p>2. 事業概要： ハワイ島の様々な分野の事業所を訪問、調査することを中心に、ハワイの地域の特性を学ぶ機会とする。地方の小規模都市として共通点の多い、弘前市とアメリカ、ハワイ州カイルア・コナで地域のインフラ・ストラクチャーや事業、農業の見学、職業実習(ジョブ・シャドウイング)などを行う。</p> <p>3. 設定した課題： 学生各々が事前に題材を用意し、ハワイの農業従事者、事業者を訪問、街の人に対する聞き込みを中心に課題解決に向かって調査を進める。</p> <p>4. 期待される成果等： 自らすすんで考えて動き、定めた課題を解決するために努力することで、課題解決能力を養成する。英語で地域の職員や住民とコミュニケーションをとることで、英語をツールとして世界を学ぶ機会とする。</p> <p>5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあたる効果・成果等： 弘前市とハワイの気候や風土の違いを理解したうえで双方の地域の特性を比較し、ハワイでの生活で善く活かされているものを発見することで、弘前市での生活をより良いものにするための手立てを発表する。</p>

プログラムの様子



【写真1：UHCCパラマヌイで、5000年以上前の再発見されたラムの木の手入れ】



【写真2：ハワイの農業の先駆者、ケン・ラブ】



【写真3：コナ市庁議会の人と】



【写真4：クアイビ・ファームでカカオをチョコレートに加工してチョコレート作りを学んでいるところ】



【写真5：シュタイナー・スクールで庭の手入れ】



【写真6：帰国後、イングリッシュ・ラウンジでのプレゼンテーション】

今後の展望

この研修を通して、学生はみずからハワイ・コナと比較・対照したい弘前の社会的課題と社会規範を見つけ出すことができた。自然災害による農業への影響、地方自治体の地域コミュニティへの情報共有活動、地域コミュニティの健康や寿命の改善努力、病院での患者さんへの接し方、失業者への対策等である。身に着けた課題設定・解決能力、英語を使って成果を報告・発信する能力を活かして、今後はそれぞれが専門分野を学んでいく中で、自ら疑問を提唱し、それに基づいた検証を適切に行い、その成果を地域内外・国内外に発信することに努めていく。昨年、既に帰国後、弘前大学の学生を対象に英語での報告会を行ったが、新年度入学生のためにも再びプレゼンテーションを行う予定である。